

[18] ドミニカ

1. ドミニカの概要と開発課題

ドミニカ国は、1978年に英国から独立した。ドミニカ労働党（DLP：Dominican Labour Party）のピエール・チャールズ首相が、2004年1月に急逝したことにより、ルーズベルト・スケリット教育相（当時）が首相に就任した。2009年12月の総選挙においてもDLPは圧勝し、3期目となった同政権は、緊縮財政政策を継続し、財政の安定化、経済成長及び社会保障の拡充、活発なオフショア金融部門の確立、海外からの投資促進に努め、また、国家債務を減少する努力を行い、住宅案件の実施及び空港開発や道路整備などの公共事業にも力を注ぐなど経済成長に力を入れている。

経済面では、主に好調な観光業が牽引する形で2007年実質成長率は5年連続プラス成長となる3.7%で、前年に引き続き穏やかながらも上昇し安定している。2003年より実施されているIMFの貧困削減成長基金（PRGF）を使用した構造改革が最終段階を迎えており、バナナ生産などのモノカルチャー経済からの脱却、山がちな地形や国際空港・ホテルの未整備により、あくまでもクルーズ船観光客対象のエコツーリズムを中心とする観光業や小規模な製造業主体の経済構造への移行を進めていたが、ココナツを利用した石鹸、洗濯用洗剤等の米企業生産工場が2007年9月に閉鎖され、農産物以外の主な輸出品生産手段を失ったと同時に多くの失業者を出した。

表-1 主要経済指標等

指 標		2008年	1990年
人 口 (百万人)		0.1	0.1
出生時の平均余命 (年)		-	73
G N I	総 額 (百万ドル)	353.73	161.38
	一人あたり (ドル)	4,790	2,140
経済成長率 (%)		3.5	5.3
経常収支 (百万ドル)		-136.12	-43.53
失 業 率 (%)		-	-
対外債務残高 (百万ドル)		303.17	87.95
貿 易 額 ^{注1)}	輸 出 (百万ドル)	152.12	89.45
	輸 入 (百万ドル)	287.32	133.95
	貿易収支 (百万ドル)	-135.20	-44.50
政府予算規模（歳入） (ECドル)		-	-
財政収支 (ECドル)		-	-
債務返済比率（DSR） (対GNI比, %)		5.2	3.6
財政収支 (対GDP比, %)		-	-
債務 (対GNI比, %)		81.5	-
債務残高 (対輸出比, %)		152.8	-
教育への公的支出割合 (対GDP比, %)		4.8	-
保健医療への公的支出割合 (対GDP比, %)		-	-
軍事支出割合 (対GDP比, %)		-	-
援助受取総額 (支出純額百万ドル)		21.86	19.64
面 積 (1000km ²) ^{注2)}		1	
分 類	D A C	高中所得国	
	世界銀行等	iii/高中所得国	
貧困削減戦略文書（PRSP）策定状況		PRSP策定済（2006年8月）	
その他の重要な開発計画等		-	

注) 1. 貿易額は、輸出入いずれもFOB価格。

2. 面積については“Surface Area”の値（湖沼等を含む）を示している。

ドミニカ

表－2 我が国との関係

指 標		2009年	1990年
貿易額	対日輸出 (百万円)	117.28	293.48
	対日輸入 (百万円)	713.17	783.25
	対日収支 (百万円)	-595.89	-489.77
我が国による直接投資 (百万ドル)		—	—
進出日本企業数		—	—
ドミニカに在留する日本人数 (人)		13	0
日本に在留するドミニカ人数 (人)		44	14

表－3 主要開発指数

開 発 指 標		最新年	1990年
極度の貧困の削減と飢饉の撲滅	所得が1日1ドル未満の人口割合 (%)	—	
	下位20%の人口の所得又は消費割合 (%)	—	
	5歳未満児栄養失調割合 (%)	—	
初等教育の完全普及の達成	成人 (15歳以上) 識字率 (%)	88.0 (1999-2007年)	—
	初等教育就学率 (%)	72.3 (2001-2016年)	—
ジェンダーの平等の推進と女性の地位の向上	女子生徒の男子生徒に対する比率 (初等教育)	106 (2008年)	
	女性識字率の男性に対する比率 (15～24歳) (%)	—	
乳幼児死亡率の削減	乳児死亡率 (出生1000件あたり)	9 (2008年)	—
	5歳未満児死亡率 (出生1000件あたり)	11 (2008年)	18
妊産婦の健康の改善	妊産婦死亡率 (出生10万件あたり)	—	—
HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止	成人 (15～49歳) のエイズ感染率 (%)	—	
	結核患者数 (10万人あたり)	13 (2008年)	15
	マラリア患者数 (10万人あたり)	—	
環境の持続可能性の確保	改善された水源を継続して利用できる人口 (%)	—	—
	改善された衛生設備を継続して利用できる人口 (%)	—	—
開発のためのグローバルパートナーシップの推進	債務元利支払金総額割合 (財・サービスの輸出と海外純所得に占める%)	5.4 (2008年)	3.5
人間開発指数 (HDI)		0.814 (2007年)	—

2. ドミニカに対する我が国ODA概況

(1) ODA の概略

ドミニカに対する経済協力は、1983 年の本邦への研修員受入れから始まり、1993 年から水産無償資金協力を開始、2001 年に青年海外協力隊派遣取極が交わされ、2003 年から JOCV を派遣している。

(2) 意義

ドミニカ国の経済は農業に依存しており、自然災害等の外的要因に影響されるため、経済基盤は脆弱であり、経済の安定のために ODA により側面支援を行うことは重要である。

(3) 基本方針

ドミニカには技術協力、水産無償資金協力及び草の根・人間の安全保障無償資金協力を中心に協力を行っているところ、これらのスキームを活用し、同国の経済基盤の整備の観点から、同国の経済安定に資する援助を行う。

(4) 重点分野

在トリニダード・トバゴ日本国大使館及び JICA 関係者で構成されるカリブ広域経済協力戦略タスクフォースにおいて、「水産」、「環境・防災」及び「貧困削減 (社会的弱者支援、現金収入向上)」を重点分野とした。

表－4 我が国の年度別・援助形態別実績

(単位：億円)

年 度	円 借 款	無償資金協力	技 術 協 力
2005年	－	0.04	0.74 (0.72)
2006年	－	0.09	12.70 (0.47)
2007年	－	0.04	0.57 (0.57)
2008年	－	7.53	1.18 (1.18)
2009年	－	0.10	0.71
累 計	－	65.39	13.24

注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
 2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。草の根・人間の安全保証無償資金協力和日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
 3. 2005～2008年度の技術協力においては、日本全体の技術協力事業の実績であり、2005～2008年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2009年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。

表－5 我が国の対ドミニカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦 年	政府貸付等	無償資金協力	技 術 協 力	合 計
2005年	－	0.03	0.81	0.84
2006年	－	－	0.54	0.54
2007年	－	0.11	0.55	0.66
2008年	－	0.38	0.82	1.20
2009年	－	3.31	1.15	4.46
累 計	1.10	55.19	13.93	70.23

出典) OECD/DAC

注) 1. 政府貸付等及び無償資金協力はこれまでに交換公文で決定した約束額のうち当該暦年中に実際に供与された金額(政府貸付等については、ドミニカ国側の返済金額を差し引いた金額)。
 2. 技術協力は、JICAによるもののほか、関係省庁及び地方自治体による技術協力を含む。
 3. 四捨五入の関係上、合計が一致しないことがある。
 4. 政府貸付等の累計は、為替レートの変動によりマイナスになることがある。

表－6 諸外国の対ドミニカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	うち日本	合 計
2004年	日本 14.21	カナダ 0.23	ドイツ 0.05	オランダ 0.01	フランス -0.19	14.21	10.68
2005年	カナダ 1.85	英国 0.89	日本 0.84	フランス 0.73	ベルギー 0.18	0.84	4.52
2006年	フランス 0.75	日本 0.54	カナダ 0.22	英国 0.18	米国 0.06	0.54	1.84
2007年	カナダ 3.73	日本 0.66	ニュージーランド 0.05 ギリシャ 0.05	－	米国 0.03	0.66	3.13
2008年	日本 1.20	カナダ 0.42	英国 0.24	ニュージーランド 0.05	米国 0.03	1.20	0.54

出典) OECD/DAC

表－7 国際機関の対ドミニカ経済協力実績

(支出純額ベース、単位：百万ドル)

暦年	1位	2位	3位	4位	5位	そ の 他	合 計
2004年	CDB 10.03	IDA 4.04	CEC 3.39	IMF 0.91	GEF 0.23	-0.10	18.50
2005年	IMF 3.53	CDB 3.50	CEC 3.10	GEF 0.26	IDA 0.22	0.15	10.76
2006年	CEC 12.84	IMF 3.42	CDB 1.50	UNDP 0.05	UNTA 0.03	-0.37	17.47
2007年	CEC 14.09	IDA 1.93	UNTA 0.23	UNDP 0.14	IFAD -0.22	-0.28	15.89
2008年	CEC 18.36	CDB 2.02	IDA 1.25	UNTA 0.28	IFAD -0.19	0.00	21.72

出典) OECD/DAC

注) 順位は主要な国際機関についてのものを示している。

ドミニカ

表－8 我が国の年度別・形態別実績詳細

(単位：億円)

年度	円 借 款	無 償 資 金 協 力	技 術 協 力
2004年度までの累計	な し	57.60億円 (内訳は、2009年版の国別データブック、もしくはホームページ参照 (http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/index/shiryo/jisseki.html))	9.59億円 研修員受入 76人 専門家派遣 6人 調査団派遣 73人 機材供与 155.62百万円 協力隊派遣 9人
2005年	な し	0.04億円 草の根・人間の安全保障無償(1件)(0.04)	0.74億円 (0.72億円) 研修員受入 8人 (7人) 専門家派遣 1人 留学生受入 3人 (協力隊派遣) (3人)
2006年	な し	0.09億円 草の根・人間の安全保障無償(1件)(0.09)	0.51億円 (0.47億円) 研修員受入 1人 (1人) 留学生受入 4人 (協力隊派遣) (4人)
2007年	な し	0.04億円 草の根・人間の安全保障無償(2件)(0.04)	0.57億円 (0.57億円) 研修員受入 4人 (4人) 調査団派遣 6人 (6人) 留学生受入 1人 (協力隊派遣) (5人)
2008年	な し	7.53億円 ポーツマス水産センター整備計画 (7.44) 草の根・人間の安全保障無償(1件)(0.09)	1.18億円 (1.18億円) 研修員受入 8人 (8人) 調査団派遣 10人 (10人) 留学生受入 1人 (協力隊派遣) (5人)
2009年	な し	0.10億円 草の根・人間の安全保障無償(1件)(0.10)	0.71億円 研修員受入 8人 協力隊派遣 4人
2009年度までの累計	な し	65.39億円	13.24億円 研修員受入 104人 専門家派遣 6人 調査団派遣 89人 機材供与 155.62百万円 協力隊派遣 30人

- 注) 1. 年度の区分は、円借款及び無償資金協力は原則として交換公文ベース、技術協力は予算年度による。
2. 「金額」は、円借款及び無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績及び各府省庁・各都道府県等の技術協力経費実績ベースによる。ただし、無償資金協力のうち、国際機関を通じた贈与(2008年度実績より記載)については、原則として交換公文ベースで集計し、交換公文のない案件に関しては案件承認日又は送金日を基準として集計している。草の根・人間の安全保障無償資金協力和日本NGO連携無償資金協力、草の根文化無償資金協力に関しては贈与契約に基づく。
3. 2005～2008年度の技術協力においては、日本全体の技術協力の実績であり、2005～2008年度の()内はJICAが実施している技術協力事業の実績。なお、2009年度の日本全体の実績については集計中であるため、JICA実績のみを示し、累計についてはJICAが実施している技術協力事業の実績の累計となっている。
4. 調査団派遣にはプロジェクトファインディング調査、評価調査、基礎調査研究、委託調査等の各種調査・研究を含む。
5. 四捨五入の関係上、累計が一致しないことがある。

表－9 実施済及び実施中の技術協力プロジェクト案件(終了年度が2005年度以降のもの)

案 件 名	協 力 期 間
カリブ災害管理プロジェクト フェーズ2	09. 1～11.12

表－10 2009年度草の根・人間の安全保障無償資金協力案件

案 件 名
プリンセスマーガレット病院精神病治療施設建設計画

図－1 当該国のプロジェクト所在図は921頁に記載。